

～ Serving the Community and Supporting the YMCA since 1976 ～



埼玉ワイズメンズクラブ

Saitama Y's Men's Club

月間テーマ： **RISE・SHINE・START**

2025
7月



2025-26 年度クラブテーマ「市民と繋がろう・市民に知らせよう」

2025-2026 年度
キックスタート

気分も新たに新年度スタート。浦和の市民活動サポートセンター（「サポセン」）での例会にも慣れてきた。ラウンジで他サークルの中においてワイズの個性を発信したい。今月ブリテンは年度方針を確認し、エッセイは浅羽メンの新年の抱負「つなぐ人になりたい」の途中の感想を掲載した。

[写真メモ] 7月19日埼玉クラブが所属する関東東部の1回目の評議会が東陽町で。男どもは打合わせなしでも悲しいほど服装は昭和。21日（祝）のクラブ例会ではクルドの若者を励ます学生たちの話に感動した。なぜかレンズが曇ってしまった。



今月の聖句

「私たちは見えるものではなく、見えないものに目を留めます。見えるものは一時的であり、見えないものは永遠に続くからです。」

コリント人への手紙（第二）4章 18節

8月 夜談会（検討中）

日時：8月11日（月）午後6時～8時

会場：サイゼリア（浦和駅東口）

▽ 気楽に知り合い、笑いながら見識を深めるさばけた市民の出会いと集いの場（覗いてください）

8月「平和」例会（検討中）

日時：8月18日（月）10:00～12:00

会場：市民活動サポセン（パルコ9階）

プログラム：今年度の活動を語ろう

埼玉クラブ 2025-2026 年度 活動方針

会長 浅羽俊一郎

* 昨年度同様に浅羽メンを会長に、それぞれ役員も続投する。サポセンでの例会も2年目に入り、新しいことは考えずに活動を充実させ、何よりも地域に存在を知ってもらい、関心ある人を繋ぎたい。

1. クラブ主題 (2024-25 年度と同じ)
「市民とつながろう、市民に知らせよう」

2. 今年度の目標 (昨年度と同じ)

1) 一人ひとりがクラブ内外で賜物を活かす。

それぞれがクラブのために自分にできることを考え、できる範囲で実践する。

2) 地域の市民(ユース・外国籍・ボランティアなど)とつながる。

ワイズの目的に賛同し、協力してくれる人財を発掘し、繋がる。

3) 会合・イベント・ブリテンを活かしてワイズの知名度を上げていく。

目標 2) 実現のためにゲストを繋ぎとめる。

4) ワイズ対象にオンライン「ジェンダー学習」(その2)を実施する。

高齢者奉仕クラブがジェンダーを学び、男女共同参画に寄与したいことをアピールする。

5) 設立 50 年を機に今求めらえる YMCA 的な青少年の活動・居場所の有り様を模索する。

地域社会が様変わりし、青少年の生活習慣も変わり、課題も多様になった今、ワイズとして今までどおりでいいのか。外国ルーツの青少年について何かできないか。当クラブとして YMCA と一緒に考えていきたい。(中期的課題と考える)

3. その他

・浦和駅東口の「市民活動サポートセンター」を活動拠点に定例会を開催し、「夜談会」も同駅サイゼリアで継続する。「き咲きてらす」等他の集会場所も臨機応変で使う。

・日本における女性差別の問題を学び、マイノリティ(若者・外国籍者)を取り巻く環境への関心を養い、他の民間団体、特に県内の2クラブと連携する。

4. 具体的目標

今期中に以下の3つのゴールの達成に努力する。

- ・例会リピーターを増やし、会友を育てる。
- ・若者、外国籍者にワイズ・YMCA を知らせる。
- ・メッセージを発信するクラブとして知られる。

以上

◆◆◆◆◆エッセイズ◆◆◆◆◆

「つなぐ人になりたい」途中感想

浅羽俊一郎

いつからか「平和」「多文化共生」など響きの良い言葉が掛け声でしかないと感じるようになっていた。行政の管理が行き届き、治安が良いことを平和と思い、多国籍の教室を多文化共生と言ってははいないか、と。

他方今、格差による分断が進み、人間関係が希薄になり、個人が孤立させられている現状を知って、掛け声で済ませずに、どうしたら自ら繋ぐ人になれるかを考えるようになった。そして、昨年大晦日に今年の抱負を「つなぐ人になりたい」とした。



この半年を振り返ってみて、偶然の出会いや再会を大切にし、繋がりたい人にはこちらから働きかけ、さらに繋ぎとめるためにフォローしていた、と言える。そのためには日頃関わっているグループやフェイスブックを活用したが、やはり対面が大切だった。繋がった人の多くが、意外とそのことを喜んでくれた。いくつか感動した出会いもあった。

むしろ今人々、特に若者が電子媒体でバーチャルな出会いや、イベントで一時的に知り合うが、深く繋がるのは煩わしい、と薄っぺらな関係で満足していることが気になる。反対に

不満な人、悩む人は耳に心地良いイデオロギーに惹かれるか、もっと精緻な社会制度を求めるようになるかもしれない。

そんなことを気にしているからか、ここに来て、妙に義理人情、落語、寅さん、昭和のテレビが懐かしく思われる。とにかく当面「つなぐ人」に挑戦し続けようと思う。◆

* 写真上は昭和 30 年頃(筆者 5 歳)北浦和の公務員アパート。下は先月見沼の市民田んぼの1田の復旧作業。



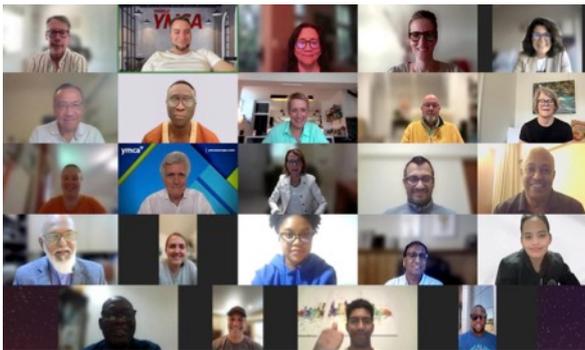
◆ 世界同盟総主事来日

6月世界同盟のサンヴィー氏と戦略政策担当のサス氏が世界同盟を代表して日本を訪問し、横浜、鎌倉、東京、大阪、広島のYMCAのプログラムに参加し、「YMCAビジョン2030」の推進をアピールした。広島では原爆資料館を見学し、大阪・関西万博ではサス氏がパネリストとして発題した。



◆ 世界YMCA執行委員会報告より

6月28日・29日に第90回会合をオンラインで開催した。開会のデボーションの祈りの中でハイエク会長は「この会合で良きガバナンスを議論することが、若者と地域社会に奉仕するという私たちの本来の仕事の基盤となるのです」と述べた。委員会では4つのYMCA地域同盟とカナダと米国が報告。



- ・ アフリカ同盟ではアフリカン・ルネッサンス・クラブ（共有学習のプラットフォーム）を設立し、「Subject 2 Citizen」（支援対象から市民へ）プログラムの新グループを結成した。
 - ・ アジア太平洋同盟はムーブメントを強化するための新たな取り組みと、理事会再編のための規約改革を開始した。
 - ・ ヨーロッパ同盟ではEU基金から新たな助成金を受領し、「Roots for Peace」プログラムのチームを選出した。
 - ・ ラテンアメリカとカリブ海同盟では7カ国においてElevaメンタルヘルス・プログラムのアウトリーチ活動を続け、実績を積んでいる。
 - ・ カナダ同盟は約160人のボランティアを動員し、12の小委員会を立ち上げ、2026年の世界大会の準備を開始した。
 - ・ アメリカ同盟は助成金100万ドルを38カ国に分配し、若者主導の環境問題解決に取り組んだ。
- * 英文記事をグーグル翻訳/加筆しました。（浅羽）

◆ 7月「夜談会」



今月は14日に夜談会を浦和サイゼリアで開催。常連に混じって、最近「き咲きてらす」に来てくれている金子氏と、久しぶりの森下氏。そして新しく埼玉ワイズと埼玉YMCAとの間の連絡調整とYMCAサイドからクラブを支援してくれるであろう櫻井主事が参加。櫻井氏は6月ブリテンで紹介したが、所沢市「こぼと児童館」館長さん。間に合えばこれからも出てもらえそうだ。（浅羽 記）

出席：森下、浅香、浅羽 M、櫻井、金子、高岡、上松、宮原、浅羽

◆ 7月「生みの日」例会

7月は新年度開始月ということでキック・スタート例会の月。21日は海の日で祝日だが、特別に加藤美和氏をゲストに迎え、「クルドの子ども達とともに」と題して卓話をしていただいた。大学4年生の加藤氏は中学時代にシリア難民の写真を見て、それ以来難民問題や貧困問題と取り組んでこられた。話はいきなり「仮放免を知っていますか」という質問で始まり、そこから在留許可のない外国籍の人々の日々の苦労（仕事につけず、移動制限があり、保険にも入れない、言葉の問題等々）を語る。



そこで始めた「豆の木」活動。小中学校と進学した子どもが、高校になると月々1万円の授業料が払えず、進学や就職も難しい。そんな彼らに自尊心を取り戻してもらいたい、と加藤氏と仲間数名で西川口や蕨で居場所活動をしている。資金は民間からの寄付だけなので大変だが、子ども達に笑顔が戻るととても嬉しい、と。メディアの報道では全体が見えない深刻なテーマだが、彼女はパソコンのスクリーンに映る笑顔の子ども達を見せながら、分かりやすく語ってくれた。

今回は参加者が増えることを見込んで、12人掛けのテーブルを1週間前に予約。当日は14人が出席。内女性が6名。それだけでもクラブとしては久しぶりのことだったが、さらにその内加藤さんと、以前オープン・フォーラムYに参加した小松さんは若者。お陰さまで、例会全体が若さと活気にあふれていた。

なおいつものニコニコ自由献金を、その場で「豆の木」に寄付することを提案したところ、ゲストの皆さんも協力してくれて11,000円集まり、そっくり加藤さんにお渡しした。(浅羽 記)

出席：加藤・小松・丸山・渋谷M・渋谷H・渋谷S・佐久間・衣笠・伊藤・高岡・浅羽M・上松・衣笠・浅羽

◆ 関東東部評議会



7月19日(土)午後1時から5時まで東京YMCA東陽町センターにて関東東部の今年度第1回評議会が開催された。今年度部長は江東クラブの鈴木雅博メン。主な議題は2つ。(1)恒例の秋の部大会を挙げるかを各部で決めることになったからだ。問題は財政的負担とプログラムの中身。特にメンバー間の交流の要素がかけていることが問題。この件はその年度毎に部長の判断に任せ、そのために部則を一部改定することにした。(2)東日本区信条を見直す件。これは共通の資料を整えてから年度内にクラブで話し合うことになった。(浅羽 記)

出席：衣笠・浅羽



仲間からの便り



◆ 7月の俳句 塀和光二郎メン (俳号 愚道)

夏火事やサイレンの音叫び声

先日我が家のすぐ近くで火事がありました。群がる人たちと被害の方たちは泣き叫んでいます。川向こうの火事とはよく言ったものですね。



玉ねぎや料理スタート真二つに

玉ねぎは夏の季語なんです。一人住まいの私は玉ねぎは必需品、先ずは真二つから

梅雨の旅告げる人なく宛てもなし

最近是人と絡むのがつらくなり、一人旅に出たくなりました。でも会いに行く人もなく、どこにも宛てもありません。

◆ 高岡敏夫メン

5月下旬に秋田に車で一人旅を挙行した。過去2回は1泊だったが、今回は3泊。行きは高速道路を使って、1時間毎に短い休憩をとって、片道8時間かけて到着。回ったのは県南の湯沢周辺。友達に会えたり、何よりも角館(かくのたて)の武家屋敷が良かった。人力車に乗ると、車夫の説明が面白かった。田沢湖にも寄った。往復で1250キロ。行く前家族に止められたが「無事帰ってこられて良かった。とにかく楽しかった。」来年も挙行すると、電話の向こうの声は張り切っていた。

統計	出席	会員	ゲスト/ビジター
夜談会 (07/14)	9	5	4
月例会 (07/21)	14	6	8

ワイズメンズクラブ 案内



ワイズメンズクラブ国際協会 (Y's Men International) は世界的な青少年教育団体YMCAを応援する国際的な奉仕クラブです。若者と地域への奉仕と、国内外の交流を進めています。肩書き/性別/政治/宗教/年齢差を問わず皆対等です。奉仕活動をしたいけれど、最初の一步が踏み出せない方、ワイズ活動から試しませんか。埼玉クラブは浦和区を拠点に活動して再来年で50年になります。

先ずは月例会を覗いて、雰囲気味わってください。年会費4万円ですが、ゲストとして参加し皆と一緒に活動することもできます。

* 詳細は埼玉クラブ会長 浅羽まで。(090-7426-5553)